

ITBO研究会の活動

2012年4月18日

特定非営利活動法人 事業継続推進機構(BCAO)

情報システム・バックアップオフィス研究会

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

2011年度の活動内容

1. ITBO 用語研究

- BCPに関連するIT用語/BO用語の解釈をITBOの立場から定義する
 - ・ ITの用語に詳しくない人（例：経営層、総務部門）に最低限の認識をもってもらえるような内容とする
 - ・ 基本的な用語を取り上げ、平易な解説を加える

2. プレゼンテーションによる情報共有

- 自社/他社の製品、事例、研究会以外の情報も含めて情報を共有する

3. HAPPY HOUR

- 定例会メンバー自身が討議したいこと、他メンバーの意見を聞いてみたいテーマなどを提示し、全員で意見交換を行う

4. 他の研究会との交流

5. 東日本大震災で発生した事象や関連する影響についての意見交換

- 震災発生時に認識した、必要な備えとは何か
- 東日本大震災で改めて判明した、BCの策定に影響を与える要件について
- 東日本大震災によってその前と事情が変化したものとは何か

6. クラウドに関する検討

- 東日本大震災を契機として始まったクラウドの発展についての検討

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

2011年度の活動の総括

1. 東日本大震災の影響

- バーチャル定例会の実施
⇒震災の影響により参集が難しくなったが、それを契機としてネット上でクラウドを利用してITBOに閉じた掲示板を立ち上げ、バーチャルな定例会を開催した。（2011年4月）

2. 活動方針の変更

- ITにたずさわる研究会であるという特色にこだわる
⇒プレゼンテーションのテーマや内容について、こだわりをもって厳選するようになった
- バックアップオフィスにもっと目を向ける
⇒バックアップオフィスの重要性を改めて認識し、バックアップオフィスに関する話題を積極的に取り上げるようになった



これを契機にメンバーの視野や問題意識が広がり、2012年度は検討するリスクの対象範囲を広げながら整理していくこととした。

1. ITBO用語研究（2011年度実績）

#	用語	#	用語
1	復旧オプション	11	受電方式
2	耐震構造	12	テレワーキング
3	耐震補強	13	スプリットチーム
4	制震構造	14	代替拠点
5	制震補強	15	相互協定
6	免震構造	16	参集計画
7	免震補強	17	災害危険度
8	耐震クラス	18	ハザードマップ
9	Is値（アイ・エスち）		
10	UPS（無停電電源装置）		

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

1. ITBO用語研究（2010年度実績）

#	用語	#	用語
1	ITサービス継続マネジメント	11	ウォームサイト
2	ITサービス継続戦略	12	ホットサイト
3	ITサービス継続計画	13	ミラーサイト
4	ITサービス継続	14	バックアップ
5	インシデント	15	リカバリー
6	DRP	16	リストア
7	コンティンジェンシー・プラン		
8	バックアップサイト		
10	コールドサイト		

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

1. ITBO用語研究 (事例)

【用語】 耐震補強	【英名】
【定義】 ファシリティの所有者あるいは使用者が求める所定の耐震性能(=耐震クラス)を確保するために、耐震構造で補強を施すこと。 具体例として、RC造の構造体であれば、壁・柱の増し打ち、柱への鉄板や炭素繊維巻きつけによるせん断防止などがある。	
【補足情報】 補強対象はファシリティであり、構造体だけではなくパーティションや天井といった建築二次部材や家具・什器・備品、建築設備なども含まれる。具体的には、耐震診断を実施。耐震目標を定め、補強方法(耐震補強、免震補強、制震補強)を選定することになる。耐震補強は他の補強方法と異なり、建物が揺れることには変わりはない	
【用法】	
【同意語】	【類似語】
【関連用語】 免震構造、制振構造、耐震改修促進法	
【参考にしたガイドライン等】	

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

1. ITBO用語研究 (事例)

【用語】 制振(震)補強	【英名】
【定義】 ダンパーなどの制振(震)部材で地震エネルギーを吸収することにより、構造体の揺れを低減するもので、ダンパーを電気や油圧で動かす『アクティブ制振』や、バネの力だけで振り子のように動く『パッシブ制振』など様々な手法がある。近年は、長周期地震動対策で制振装置を超高層ビルに導入する例が増加している	
【解説】 構造体の固有周期を変化させ地震動と共振させなければよく、様々な手法がある。例えば、液体のスロッシング(液面揺動)を利用したものや、ヘリポートを利用したものなど	
【用法】	
【同意語】	【類似語】
【関連用語】 耐震補強、免震補強、耐震改修促進法	
【参考にしたガイドライン等】	

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

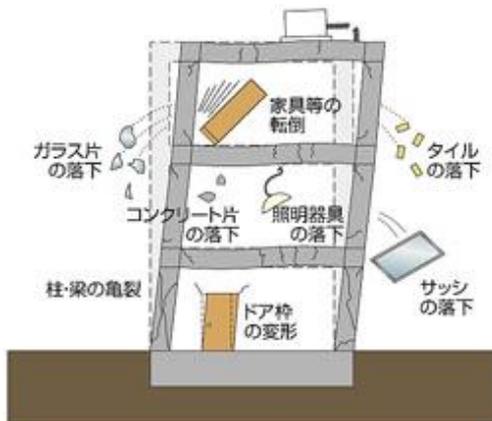
1. ITBO用語研究 (事例)

【用語】 免震補強	【英名】
【定義】 構造体の場合、基礎や中間階に設置した免震装置で上階と下階の構造を絶縁し、地震の強い揺れをゆっくりとした揺れに変える。基本的に免震化されたフロアより上の部分の補強は不要になるか、大幅に緩和される。サーバールームや実験室の床など、部分的に免震装置を設置する(部分免震)場合や縦揺れにも対応した三次元免震もある。	
【解説】 免震装置は一定の振幅をするため、周囲に空間が必要で、特に構造体の場合50cm～100cm程度の空地の確保が必要とされる。	
【用法】	
【同意語】	【類似語】
【関連用語】 耐震補強、制振補強、耐震改修促進法	
【参考にしたガイドライン等】	

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

1. ITBO用語研究 (事例)

耐震構造



建物に加わった地震力に対抗

「建物の粘りや強さ」を補強し、
建物に加わった地震力に堪える

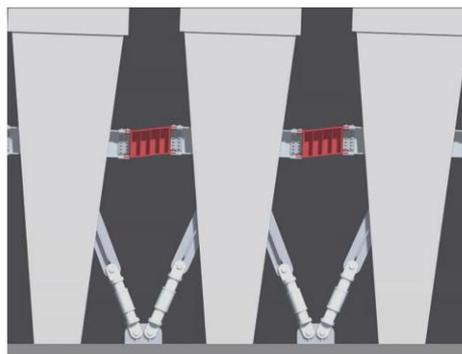
〈新築の場合〉

・より厚い壁、太い柱

〈改修の場合〉

・柱に鉄板、炭素繊維巻きつけなど

制震構造



建物に加わった地震力に対抗

建物に加わった地震力を制震装置で弱める

〈制震装置事例〉

・オイルダンパー

・液体スロッシング(横浜マリンタワー)

・ヘリポート

免震構造



建物の揺れそのものを低減

建物の固有周期を長くし、建物そのもの
に加わる力そのものから免れる(絶縁)

〈装置設置場所〉

・基礎

・中間階(敷地に十分な余地がない場合)

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

2. プレゼンテーションによる情報共有

#	演目	講演者
5月	BCMSツールのご紹介	小山 隆氏（株式会社 ヒルベット・ソリューション 代表取締役）
6月	災害マネジメントにおける、セマンティック技術の活用可能性	氏家 真氏（株式会社ソルトルックス 日本支社長）
7月	外資系企業のBC対策について	佐柳 恭威氏 （バークレイズ・キャピタル証券）
10月	複合災害の発生を想定したBCPトレーニング事例の紹介	川村 丹美氏 （株式会社 シーエーシー）
11月	東海・東南海・南海三連動地震の被害想定のとし穴	佐柳 恭威氏 （バークレイズ・キャピタル証券）
12月	東日本大震災における、免震・制震の効果 ～仙台と東京～	関山 雄介氏（大成建設株式会社）
1月	内閣府防災の取組について	山本 匡氏（内閣府 政策統括官（防災担当）付 参事官（災害予防担当）付 参事官補佐）
3月	セキュリティ動向 2011 -サイバーセキュリティを中心に-	齋藤 衛氏 （株式会社インターネットイニシアティブ）

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

3. HAPPY HOUR（討議テーマ）

- ◆ 東日本大震災における、IT面での対応について
 - 自社事例の交換
 - 安否確認システムの有効性について
- ◆ 7月12日に開催されたBCAOセミナーを振り返って
 - BCPが開催したセミナーの内容に関する報告
 - セミナーで展開された議論に対するITBO内での討議
- ◆ BCPを経営者にコミットしてもらう方策
 - 統一した形で役員などからのコミットメントが得られない場合の対策について
- ◆ 全社的に統括したBCP対策を行う方策について
 - 人事、システム、R&D,などそれぞれに対策を作っており、まとまっていない、あるいは部門間で相互に調整できず、冗長になっているケースの対応策について
- ◆ 東日本大震災発生後のクラウドの活用状況について
 - 東日本大震災発生後、どのようなクラウドサービスが提供されたか
 - クラウドサービスの利用状況はどうだったか

4. 他研究会との交流

◆ 研究会訪問

➤ 関西支部会：勉強会への参加

2012年3月に開催された関西支部会/勉強会に座長が出席し、奈良にある大和ハウスの研究施設見学に参加した。

5. 東日本大震災で発生した事象や関連する影響についての意見交換

◆ 震災発生直後の経験の共有

- ① 災害時に使えた通信方法について
- ② 安否確認システムの有効性
- ③ 地震、その時の自分の行動と周囲の状況

◆ 自社のしくみで機能したもの、しなかったもの

- ① BCPの発令
- ② 帰宅指示
- ③ データセンター機能
- ④ 訓練の重要性

◆ 施設設備、社会インフラ等

- ① 電力供給の継続性
- ② バックアップオフィスの設置ロケーション
- ③ 免震構造の有効性
- ④ インターネットの脆弱性
- ⑤ クラウドサービスの有効性と限界

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

6. クラウドに関する検討

1. 議論の概要

- 検討期間：2010/11～2011/07（うち、3月～5月はメンバの震災対応のため検討を中断）
- 前提の整理：
 - ・ 方針：
BCMの観点から分析することとし、クラウド自体は紹介程度にとどめる
 - ・ 検討方法：
理想と現実を把握すること。技術に偏らずユーザ目線を重視すること
 - ・ 制約事項：
特定ベンダーによらず中立の立場で議論すること

6. クラウドに関する検討

2. クラウドサービスの現状と理想のギャップ

- クラウドサービスの限界を把握するため、ユーザの過剰な期待、ベンダー（プロバイダ）の課題、ユーザ・ベンダ共通の課題、外部依存性、セキュリティ上の課題など
- 災害時のクラウドのあり方として、「有事」の考え方、監査、BCの要件、災害時の利用可能性と範囲、有事に利用するためのクラウドの改善事項
- SLA／アウトソーシングについて、有事に関するSLA、課題やSLAのパターンなど
- クラウドの責任分解点
- クラウドにおけるベンダロックインの状況やその問題
- クラウド導入時にメリットを享受するための考え方など
- クラウド導入のリスク
- クラウド利用における、ネットワークの考慮事項やリスク
- 企業規模の違いによるクラウドの適正やニーズの違いなど
- クラウドの事例として、特許出願や官公庁・自治体などの事例
- 官公庁との連携や海外クラウド利用に関する注意事項

2012年度の活動予定

- これまで触れてこなかった脅威として、地震だけではなく広く下記の3つに分類する
 - ・ 自然災害、人為的災害(サイバーテロ等を含む)、パンデミック
 - ・ 討議の際には3つの分類を意識して進める

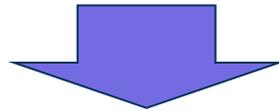
1. プレゼンテーションによる情報共有
2. HAPPY HOUR
 - メンバー自身が提示したテーマに基づき、全員で意見交換
3. ITの継続に関するリスク整理
 - サイバーテロ、ネットの脆弱性といった視点も加える
4. ITのBC対応に関するパターン研究
 - クラウドの活用
 - 各種ITソリューション
 - バックアップオフィス
 - BCP訓練の実施
5. 事業継続、災害発生時に有用なITツール、ITの有効利用法
 - ガイドブックなどの成果物に落としこむことを目標に進める
6. 他の研究会との交流
7. ITBO 用語研究
 - 2010年度～2011年度の成果物として整理し、BCAO内で公表する
 - 見直しの必要が発生したときに対応する

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

活動方針

◆ 出席することを前提とした活動とする

- 意見交換・討議を通して認識を高める
- 他業種についての理解を深めることで、自社のBCに関する気づきやヒントを得る



参加して発言することに意味がある

◆ BCについての理解をより深める

◆ 人脈を広げる

※ 本資料の文責は研究会にあり、BCAO全体の見解ではありません。

特定非営利活動法人
事業継続推進機構

情報システム・バックアップオフィス研究会

A Specified Non-Profit Japanese Corporation
Business Continuity Advancement Organization (BCAO)